

アコと人生…この人にインタビュー《第6回》「櫻井 彬さん」

今年度開催の第6回伴奏講座(三回シリーズ)に始めて参加された方で、フォークダンスが趣味の一つとおっしゃる櫻井彬さんに3月12日(木)最寄りの戸塚駅でお会いしました。この日は午後8時から9時が練習時間と言うことで、午後6時に待ち合わせをし駅前の喫茶店にて教室へ行く前の1時間半ほど時間を作っていただきお話を覗きました。(写真は櫻井氏より提供)

記…今日はよろしくお願ひします。

早速ですが生まれはどちらですか。

櫻井…1937年(昭和12年)御茶ノ水で生まれました。最初のアコーディオンも須田町の交差点にあった古道具屋で買いました。昭和10年ごろの完全木製の真っ白いトボのアコーディオンでした。

記…どうしてアコーディオンだったのですか

櫻井…二十歳のころはうたごえ運動が真っ盛りで「中央合唱団」とか「日本のうたごえ」にも参加し、「カチューシャ」とかいろんなうたごえ喫茶へも行きました。私のいた千葉大学でも「歌う会」というのがあって、その中でアコーディオンを弾く人もいたのであこがれていました。その頃、湯島にあった「トボアコーディオン教室」へ通い始めました。

私と一緒に入った生徒の中には、有名な演奏者になった御喜美江ちゃんがありました。当時三歳だったと思いますが、彼女は他の楽器はやらないでアコーディオンだけ一生懸命弾いて、あれよあれよという間にずんずん上手くなっていきました。伴典哉氏が先生で当時まだ若く、私は週1回、宿題をやって行って30分ぐらい見てもらいました。でも6年間通ってやめてしまいました。

記…大学の中では弾けなかったのですか

櫻井…はい、まだまだ弾けませんでした。その後埼玉県庁に入り60歳の定年まで公園などで仕事をしていました。でも、埼玉でメーデーの時には私もアコーディオンを抱えて行進しましたね。中年になると仕事も忙しくなったり、酒も飲んだり、たまに引っ張り出しては弾く程度になってしまいました。

記…もったいなかったですね

櫻井…でもやめちゃったわけではないんですよ、50歳過ぎてからフォークダンスを始めたんです。フォークダンスは中学のとき学校でやったのが忘れられなくてね。フォークダンスは必ずアコーディオンが付いてくるでしょ、だからフォークダンスの輪の中で弾けたらいいなあと思っていました。「マイムマイム」とか「コロブチカ」とか、「木の靴」とか三つぐらいしか弾けなくてもフォークダンスの伴奏は楽しんでいました。アコーディオンはもともと野外で弾く楽器なんですね。

記…戸塚に来られたのはいつ頃ですか

櫻井…義理の母が現在92歳ですが、一緒に住もうということになり4年前に引っ越してきました。戸塚にもフォークダンスクラブがあって、毎週土曜日夫婦で通っています。こちらはテーブルで踊っているので何回か弾かせてもらったけど私の演奏技術、腕前ではもどかしい。需要はあるのに悔しい!

先日参加した伴奏講座の合宿のときも、交流会でフォークダンスの曲を2曲(マイムマイムとシュワジヴェチカ)演奏しました。交流会で弾かせてもらったのでうれしくて眠れませんでした。

記…現在習いに行かれている松永先生とはどのような出会いだったのですか。

櫻井…松永幸夫先生の教室に通うようになったのは去年の9月からです。埼玉に視覚障害者のフォークダンスの会があって、私の入っている浦和フォークダンスの会の繋がりアコーディオンを持って行ってみたら、そこへ松永先生が来ておられ、初めてお会いして、フォークダンス

の伴奏も一緒に弾きました。終わってから打ち上げの席で松永先生がみんなの席を回りながら、どんなジャンルの曲でも弾いちゃうって感じで立奏されるのを見てあこがれちゃって即座に弟子入りさせてくださいって頼んじゃった。その日、帰りの電車の中で、埼玉から横浜へ帰ってくる間に“次のレッスンはいつ”と決めて、今は二週間に1度、茅ヶ崎にある松永アコーディオン教室に通っています。

そこで、関東の実行委員会ニュースを知り、伴奏講座を知りました。アコーディオンの仲間っていいですね。私は、伴奏講座の合宿に参加できて幸せです。

記…それは良かったですね

櫻井…フォークダンスの場合、アコーディオンは完全に立奏で暗譜が条件なんです。そうでないと踊りについていけないわけです、松永先生みててあのよう、例えばコードだけでも合せられれば最初の曲でも伴奏できるんですね。独奏できなくても応用が利くんだなってことがわかったんです。

フォークダンスの伴奏、これは、私のこれからの一つの目標ですね。松永先生もフォークダンスってというのはアコーディオンにとって宝の山だとおっしゃっています。フォークダンスが踊れて伴奏もできるのは凄い財産だって励まされました。

今私は、練習時間はたっぷり取れて、その点恵まれていると思います。ことばを話すような柔らかな演奏がしたいですね。

記…柔らかさ？一つの鍵盤を押して次の鍵盤に受け継ぐみたいな動き、これが我々の年になるとどうしてもぎこちなくなっちゃう。だから音が

綺麗に繋がってくれない。同じ曲を繰り返し練習すれば次第に力が抜けてきて、指もそれなりに動いてくれるんだけど、新しい曲を習い始めるとどうしても力が入るしぎこちないからなかなか曲らしく聴こえない。

櫻井…そうですね、「マイムマイム」ってあるでしょあれを弾いてるときは、もう踊りの中で自分が前へ行ったり後ろへ行ったり、背中を突かれたりして、ふざけながら無意識に弾けるんですよ。弾いているっていう自覚がなくてみんなと一緒に遊んでいるって感じなんです。ところが他の曲になるとそうは行かなくて硬くなってしま。おそらくマイムマイムは何千回は判らないけど千回近く弾いているんでしょうね。じゃあ全ての曲を千回弾けば横森良造さんみたいになれるかなあと想像もするんですけど、あの方も独学だったそうですから…私も自分で工夫しながらやって行きたいと思います。

アコーディオンていうのは民族楽器で楽譜を読めない人のためにできた楽器だそうです。

記…楽譜の読めない子どもでも弾きますからね、話が尽きませんが時間になりました。

櫻井…今日は、お話ができて本当に良かったです。今夜もこれから練習に行ってきます。

記…こちらこそ、練習前の貴重な時間をあけていただきありがとうございました。（文：乙津）

フォークダンスの合宿（赤城）でアコを弾く櫻井さん



